

須佐地域にまつわるストーリー

益田氏と須佐

萩藩永代家老として毛利氏を支え、「萩の土塀は須佐(初)で持つ」といわれた益田氏

益田氏は本姓を藤原氏といい、石見国（現島根県西部）を本拠としていた平安時代から勢力を持つ武士団でした。その後、周防国（現山口県中央部・東部）の山口を本拠とする有力な守護大名・大内氏と結んで、戦いに功を挙げ、現在の益田市域の支配をほぼ確立しました。天文20年（1551）、西国一の大名・大内義隆が陶氏の謀反によって自害しました。ところがその後、陶氏が毛利元就に敗れたため、益田氏は大内氏、毛利氏どちらに付くか選択を迫られ、弘治3年（1557）生き残りを賭け毛利氏を選びました。慶長5年（1600）関ヶ原の戦いで西軍毛利氏は敗れ、中国地方8ヵ国から周防・長門2ヵ国（現山口県）に領地を大きく削減されました。このとき益田元祥は、家康から大名にすると誘われましたが、それを断り、毛利氏の萩移転に伴い先祖代々の本拠・益田を離れ、一万二千石余を与えられて須佐を本拠としました。元祥はその後、ひっ迫していた萩藩の財政再建にも腕をふるい、四千貫もの借銀を完済した上、納戸銀千三百貫目や金六千両まで蓄え、藩主から大きな信頼を得ました。そうした功績をあげた益田氏は、萩藩永代家老となりました。

その後も益田氏は、幕末まで代々藩の要職を務め、藩主を支えるかけがえのない位置にあり続けました。このことから、「萩の土塀は須佐(初)で持つ」といわれました。

※納戸銀…藩の貯蔵金的一种

※初…壁土に混ぜて、ひび割れを防ぐための短く切った藁など

今でも古地図で歩ける須佐のまち



須佐のまちは、益田家の本拠地として栄え、山に囲まれ、碁盤の目のように仕切られた土地に、益田家中の屋敷や神社・寺院などが建ち並んでいました。町の中央を通る石州街道の西と南には惣門が設けられ、町を守る体制がとられていました。江戸後期に作成された須佐市中細見図では、当時の町割の様子を見ることが出来ます。

幕末を支えた須佐の志士たち

益田親施は天保4年（1833）に生まれ、萩藩校明倫館に学び、吉田松陰の兵学門下生となりました。嘉永6年（1853）黒船が浦賀に来航すると、幕府から萩藩に相模国（神奈川県）の警備が命じられました。有能だった親施はその警備を任されるなど藩の要職につき、藩主・毛利敬親を補佐していきました。

やがて諸藩の志士らに尊王攘夷の気運が高まりましたが、文久3年（1863）京都で8月18日の政変が起き、尊王攘夷派のリーダーだった長州藩と7人の公卿（七卿）が京都から追放されました。親施らは、七卿を護りながら、長州へ帰着します。その後、朝廷に無実の罪を訴えるべきという声が高まっていき、元治元年（1864）家老の親施と福原越後、国司信濃らは諸隊を率いて上京し、朝廷に嘆願を重ねますが、拒絶され、御所の門（禁門）へ突入しました。長州藩は薩摩藩・会津藩などに敗退し、禁門の変の責任を負って親施ら三家老が切腹しました。

禁門の変の後、藩内は改革派と保守派に分かれて激しく対立しました。益田氏家臣の中でも対立は起き、切腹前に幽閉された親施を助け出そうと、大谷僕助は心光寺に集まった36人と回天軍を組織しますが、保守派に捕えられ、慶応元年（1865）、浄蓮寺で自刃しました。

長州藩は慶応2年（1866）、幕府軍との戦いへ突入しました。この戦いは、4つの国境で行われたことから四境戦争ともいい、須佐の志士たちが、主に活躍したのが石州口の戦いで、長州軍の勝利で幕を下ろしました。この戦いで激戦地となった益田は、かつての本拠地で、禁門の変の責任を負って自刃した領主・益田親施の無念を晴らしたい思いが、幕府軍と戦う須佐兵を一層の奮戦へ駆り立てたのかもしれません。

須佐育英館

益田家27代元道が、享保年間（1716～1735）に、子弟教育のため藩校明倫館にない設けた郷校です。幕末には、吉田松陰の松下村塾や萩明倫館と交流が盛んで、久坂玄瑞や伊藤博文、品川弥二郎、山田顕義など幕末の志士たちも交換塾生としてここで学び、逆に大谷僕助ら7人の須佐の志士も松下村塾で学びました。

施設のご案内

萩市須佐
歴史民俗資料館「みこと館」・「益田館」

須佐の歴史と文化が学べる資料館。萩藩永代家老益田家に関する資料や須佐唐津焼、幕末志士の資料などが保存、展示されている。

住 所：萩市須佐大字須佐4441-10 電 話：08387-6-3916
時 間：9:00～16:30（入館は16:00まで）
入館料：大人310（210）円、子供150（100）円 ※（ ）は団体料金
定休日：月曜日および祝祭日の場合は翌日、12月29日～1月3日

須佐湾遊覧船（ジオクルージング）

須佐ホルンフェルスや雄大な屏風岩、神秘的な海食洞など…。イカ釣り漁船や遊覧船で周遊する。

運航期間：GW～10月末 運航時間：10:00～15:00
乗船料金：大人1800円、小学生以下 900円（3歳未満無料）
予約・問合せ：08387-6-2266（須佐おもてなし協会）
※運航日時は要問合せ

つわぶきの館

須佐の特産品を販売。須佐ホルンフェルスの遊歩道へは、ここの駐車場（無料）が便利。

住 所：萩市大字須佐7905-1
電 話：08387-6-2266
時 間：3月～10月/9:00～17:00、11月～2月/9:30～16:30
定休日：3月～10月は木曜日、11月～2月は火・木曜日
（祝祭日の場合は前日）、年末年始

る～らる SHOP315

地元の主婦が作る弥富こんにゃくや漬物、旬の野菜、焼き饅頭など田舎の味がいっぱい。

住 所：萩市大字弥富814-1
電 話：08387-8-2315
※営業日時は要問合せ

いかマルシェ

須佐でとれるケンサキイカを須佐之男命（スサノオノミコト）にちなんで「須佐 男命いか（すさみこといか）」としてブランド化し、販売。水槽で泳ぐイカを見ることが出来る。地元でとれた鮮魚、水産資源を活用した加工品、農産物や総菜なども販売する観光案内の拠点施設。

住 所：萩市須佐429-4（JR須佐駅前）電 話：08387-6-3380
時 間：平日/9:00～18:00、土・日・祝/9:00～17:00
定休日：年末年始（12/31・1/1）

そば処「龍の里やどみ」

休校中の弥富小学校を利用してそば処をオープン。弥富の肥沃な大地で育った地元産そばの実を石臼挽きして手打ちした、香り豊かなこだわりの十割そばを週末限定で提供。

住 所：萩市弥富下4083-1（萩市立弥富小学校）
電 話：090-3374-1393（奥山）
時 間：土・日・祝/11:00～14:00（平日は20名以上の団体で要予約）
定休日：月～金曜日
U R L：ryuunosato-yadomi.com

須佐の季節暦

春

- 須佐焼ふれあい祭り（5月3・4日）
- エコキャン祭り（5月5日）
- 須佐湾遊覧船運航（GW～10月末）

夏

- 須佐男命いか直売市
- 祇園祭（7月25・26日）
- 弁天祭（7月27・28日）
- 須佐湾大花火大会（7月28日）
- 龍が通った道まつり（7月）
- 各地区盆踊り大会（8月）
- 須佐男命いか祭り

秋

- そばの花まつり（10月第1日曜）
- 幕末体験「育英塾」（10月）

冬

- 須佐特産「暮の市」（12月28日）

R3.3 現在

編集
発行

萩まちじゅう博物館推進委員会須佐部会
萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業実行委員会

平成27年度文化庁文化芸術振興費補助金
（文化遺産を活かした地域活性化事業）

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

萩まちあるきマップ

須佐おたからマップ



須佐は、地質の宝庫とも言われ、約1650万年前の日本列島が形づくられるところに堆積した須佐層群や、それを貫こうとしたマグマ（高山斑れい岩）の作用を受けた高山や須佐ホルンフェルス、また、阿武火山群の伊良尾火山から流れ出た溶岩流でできた畳ヶ淵や猿屋の瀧など、自然の造形美が地域内に多数あります。

また、萩藩を幕末まで支えた永代家老益田氏の本領地であった須佐は、碁盤の目状の町割りに、今も益田館をはじめ笠松神社、育英館跡、松崎八幡宮、大瀬寺などの史跡が残り、当時の様子を物語っています。また、明治以降の近代日本の経済・産業の発展に尽力した、久原房之助や手塚猛昌などの偉人たちのゆかりの地でもあります。

自然・歴史・文化のまちを散策してみませんか。



このマップは萩まちじゅう博物館の各エリアのおたからを紹介するマップとしてシリーズで発行しています。詳しくは萩まちじゅう博物館 おたからWEBサイトでチェック!!

www.city.hagi.lg.jp/site/machihaku/



Hagi Machijyu Hakubutsukan
萩まちじゅう博物館



須佐おたからマップ



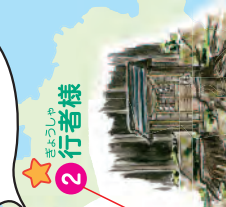
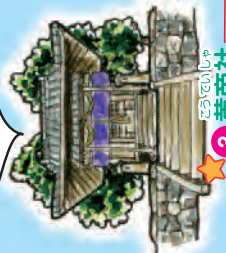
- 自然
- 伝説
- 産業
- 歴史文化
- ★ パワースポット

須佐の地名の由来

ヤマトノオロチ退治で有名な須佐之男命が出雲の国から大陸(新羅国・朝鮮半島)に渡る際に高山の峰に立ち航路を定めたとされ、須佐の地名もこの由来しているといわれています。

中国古代の神の一人として知られる黄帝は航海・造船の神としてあがめられており日本の神社に祀られているのは全国的にも珍しい

高山は北前船の船乗りから航海の目印として、海上安全の山として信仰された。黄帝社に奉納された絵馬にも描かれている



1 高山磁石

高山の山頂の岩石(斑れい岩)は、磁鉄鉱の成分が多いため、磁性が強く磁石と叫ばれる国の天然記念物に指定

2 行者様

須佐の男命の物語に由来する赤米を栽培

3 黄帝社

江戸中期、鎖国令により唐船が来航し、追いつかぬ船が退かずに自ら火を放ち焼没したが、後にたまたまにありとあるといわれ、碑をたてて死者を祀った

4 須佐ホルンフェルス

須佐湾フィッシングパーク

5 高山

弘に元年(810)秋、弘法大師が紀州熊野から御讀心霊神として祀る

6 八相権現社

久原房之助が巨費を投じて、父庄三郎の名で築造し、明治42年(1909)完成

7 久原波止場

特産の須佐唐津焼や赤米・リズなどを販売、陶芸コロ体験もできる

8 鏡山神社

須佐湾エコロジーキャンプ場

9 益田家墓所

須佐初代(20代元祥)から代々の墓所。益田時代の合葬墓もある

10 手塚猛昌顕彰碑

禁門の変の責任を負った益田親施ほか一族を祀る神社

11 須佐歴史民俗資料館「みこと館」・「益田館」

益田元道が子弟教育のため創設、幕末には多くの志士たちを輩出した

12 三蔭神社

禁門の変、石州口の戦い、戊辰戦争などの英霊を祀る

13 笠松神社

久坂玄瑞や前原一誠なども訪れていた

14 育英館跡

日本初の月刊時刻表を発刊した手塚猛昌を顕彰

15 心光寺

久坂玄瑞や前原一誠なども訪れていた

16 松崎八幡宮

久坂玄瑞や前原一誠なども訪れていた

17 イラオ火山灰層観察施設

伊良尾火山から流れ出た溶岩が、高さ50mの厚い柱状節理をつくったもので幅約300mに渡って見られる

18 道永の滝

伊良尾火山から流れ出た溶岩が、高さ50mの厚い柱状節理をつくったもので幅約300mに渡って見られる

19 量ヶ淵

伊良尾火山から流れ出た溶岩が、高さ50mの厚い柱状節理をつくったもので幅約300mに渡って見られる

20 須佐漁港

須佐漁港では、須佐男命の直売市が期間限定で開催される

おすすめトレイル

須佐唐津焼は、藩政時代から、須佐の産業を支え、その製品は、北前船を利用して北陸から北海道まで販売されていた

伊良尾火山から流れ出た溶岩が、高さ50mの厚い柱状節理をつくったもので幅約300mに渡って見られる

須佐唐津焼は、藩政時代から、須佐の産業を支え、その製品は、北前船を利用して北陸から北海道まで販売されていた

伊良尾火山から流れ出た溶岩が、高さ50mの厚い柱状節理をつくったもので幅約300mに渡って見られる

須佐唐津焼は、藩政時代から、須佐の産業を支え、その製品は、北前船を利用して北陸から北海道まで販売されていた

伊良尾火山から流れ出た溶岩が、高さ50mの厚い柱状節理をつくったもので幅約300mに渡って見られる

須佐唐津焼は、藩政時代から、須佐の産業を支え、その製品は、北前船を利用して北陸から北海道まで販売されていた

幕末、明治維新と日本の近代化を支えた須佐

幕末に活躍した益田親施をはじめ須佐の志士たちや明治維新後、日本の近代化を支えた須佐の偉人たちにまつわる場所を巡ります。

須佐初代(20代元祥)から代々の墓所。益田時代の合葬墓もある

禁門の変の責任を負った益田親施ほか一族を祀る神社

益田元道が子弟教育のため創設、幕末には多くの志士たちを輩出した

久坂玄瑞や前原一誠なども訪れていた

禁門の変、石州口の戦い、戊辰戦争などの英霊を祀る

日本初の月刊時刻表を発刊した手塚猛昌を顕彰

信仰パワースポット巡り

高山は神山とも言われ、霊山として太古の昔より崇められました。今も御利益を求め登頂参拝する人がいます。須佐の名所には高山に由来をもつパワースポットが多数あります。

高山は神山とも言われ、霊山として太古の昔より崇められました。今も御利益を求め登頂参拝する人がいます。須佐の名所には高山に由来をもつパワースポットが多数あります。

高山は神山とも言われ、霊山として太古の昔より崇められました。今も御利益を求め登頂参拝する人がいます。須佐の名所には高山に由来をもつパワースポットが多数あります。

高山は神山とも言われ、霊山として太古の昔より崇められました。今も御利益を求め登頂参拝する人がいます。須佐の名所には高山に由来をもつパワースポットが多数あります。

高山は神山とも言われ、霊山として太古の昔より崇められました。今も御利益を求め登頂参拝する人がいます。須佐の名所には高山に由来をもつパワースポットが多数あります。

高山は神山とも言われ、霊山として太古の昔より崇められました。今も御利益を求め登頂参拝する人がいます。須佐の名所には高山に由来をもつパワースポットが多数あります。

高山は神山とも言われ、霊山として太古の昔より崇められました。今も御利益を求め登頂参拝する人がいます。須佐の名所には高山に由来をもつパワースポットが多数あります。

久原房之助

明治2年(1869)～昭和40年(1965)
久原家は代々、須佐の浦庄屋をつとめ、幕末期に萩へ移住しました。房之助は明治2年(1869)萩に生まれ、明治22年慶応義塾卒業後、明治38年日立鉱山を創設、日本屈指の銅山に育ち、昭和3年(1928)には衆議院議員に当選、通信大臣に就任しました。

巨額を投じて建設した久原波止場は、熊野鉱山(鈴野川)の鉱石搬出等に大いに貢献し、北浦屈指の良港であった須佐港はいっそう繁栄しました。このほか、久原奨学金を設けて須佐子弟の進学を援助したのをはじめ、多額の寄付を行い須佐の経済・文化・教育面の発展に寄与、昭和34年旧須佐町から名譽町民の称号が贈られました。



斑れい岩(マグマ) 千疊敷 量岩

須佐ホルンフェルス

須佐ホルンフェルスは、国の名勝及び天然記念物「須佐湾」(昭和3年指定)の一角にあります。

その成り立ちは、アジア大陸から日本列島が分かれ、約1650万年前に日本海に最初に堆積した泥や砂の層(須佐層群)が広がり、そこにマグマが下から突き入り、噴火せずに留まったことにより、このマグマの熱によって、須佐層群の岩石は熱変成作用を受け、ホルンフェルス(ドイツ語で「角石」を意味し、鋭く角のように割れる岩石)という岩石になり、千疊敷や量岩まで影響が及びました。

須佐ホルンフェルスでは、熱源のマグマが冷え固まった斑れい岩が受ける前の元の岩石で一連の変化した岩石が見られます。

地質の宝庫・須佐

- 1 高山磁石
- 2 行者様
- 3 黄帝社
- 4 八相権現社
- 5 鏡山神社(浄蔵貴所)
- 6 松崎八幡宮(須佐神社)
- 7 久原波止場
- 8 鏡山神社(浄蔵貴所)
- 9 益田家墓所
- 10 手塚猛昌顕彰碑
- 11 須佐歴史民俗資料館「みこと館」・「益田館」
- 12 三蔭神社
- 13 笠松神社
- 14 育英館跡
- 15 心光寺
- 16 松崎八幡宮
- 17 イラオ火山灰層観察施設
- 18 道永の滝
- 19 量ヶ淵
- 20 須佐漁港

おすすめトレイル

須佐唐津焼は、藩政時代から、須佐の産業を支え、その製品は、北前船を利用して北陸から北海道まで販売されていた

おすすめトレイル

伊良尾火山から流れ出た溶岩が、高さ50mの厚い柱状節理をつくったもので幅約300mに渡って見られる

おすすめトレイル

須佐唐津焼は、藩政時代から、須佐の産業を支え、その製品は、北前船を利用して北陸から北海道まで販売されていた

おすすめトレイル

伊良尾火山から流れ出た溶岩が、高さ50mの厚い柱状節理をつくったもので幅約300mに渡って見られる

おすすめトレイル

須佐唐津焼は、藩政時代から、須佐の産業を支え、その製品は、北前船を利用して北陸から北海道まで販売されていた

おすすめトレイル

伊良尾火山から流れ出た溶岩が、高さ50mの厚い柱状節理をつくったもので幅約300mに渡って見られる

おすすめトレイル

須佐唐津焼は、藩政時代から、須佐の産業を支え、その製品は、北前船を利用して北陸から北海道まで販売されていた

久原房之助

明治2年(1869)～昭和40年(1965)
久原家は代々、須佐の浦庄屋をつとめ、幕末期に萩へ移住しました。房之助は明治2年(1869)萩に生まれ、明治22年慶応義塾卒業後、明治38年日立鉱山を創設、日本屈指の銅山に育ち、昭和3年(1928)には衆議院議員に当選、通信大臣に就任しました。

巨額を投じて建設した久原波止場は、熊野鉱山(鈴野川)の鉱石搬出等に大いに貢献し、北浦屈指の良港であった須佐港はいっそう繁栄しました。このほか、久原奨学金を設けて須佐子弟の進学を援助したのをはじめ、多額の寄付を行い須佐の経済・文化・教育面の発展に寄与、昭和34年旧須佐町から名譽町民の称号が贈られました。



久原房之助